

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 登録実用新案公報 (U)

(11)実用新案登録番号

実用新案登録第3070110号
(U3070110)

(45)発行日 平成12年7月18日(2000.7.18)

(24)登録日 平成12年4月19日(2000.4.19)

(51)Int.Cl.⁷

識別記号

F I

H 0 4 M 1/11

H 0 4 M 1/11

Z

A 4 5 C 13/30

A 4 5 C 13/30

M

H 0 4 Q 7/32

H 0 4 M 1/02

C

H 0 4 M 1/02

H 0 4 B 7/26

V

評価書の請求 未請求 請求項の数4 書面 (全 4 頁)

(21)出願番号 実願平11-9226

(22)出願日 平成11年10月28日(1999.10.28)

(73)実用新案権者 599170674

有限会社日装工芸

新潟県新潟市物見山1丁目8-15

(73)実用新案権者 593095106

長谷川 健吉

新潟県新潟市新岡山2丁目12番34号

(72)考案者 清野 春男

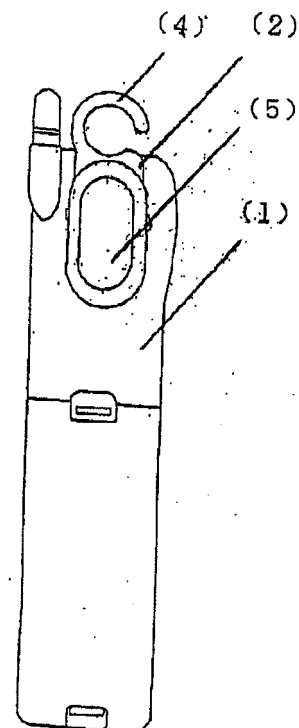
新潟県新潟市物見山1丁目8-15

(54)【考案の名称】 携帯電話用クリップ

(57)【要約】

【目的】 携帯電話とクリップを一体化して、携帯電話の落下を防ぎ、深いポケット及びケース内からの取り出しを良くして携帯電話の設置安定を得る。

【構成】 携帯電話の裏面にクリップに両面テープ要領にて接着テープを付け、携帯電話とクリップを一体化した、又携帯電話製作時、ペンキャップ要領にて、携帯電話に直接引っ掛けクリップを組み込んで、携帯電話とクリップを一体化した。



1

【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】 携帯電話の裏側に接着剤付きクリップにて付着固定して携帯電話とクリップを一体化した、携帯電話用クリップ。

【請求項2】 ペンシルキャプの要領で、直接携帯電話にクリップを設け携帯電話とクリップを一体化した、携帯電話用クリップ。

【請求項3】 接着剤付きクリップに引っ掛け具をつけ、壁などのフックにかけることを可能にした、携帯電話用クリップ。

【請求項4】 接着剤付クリップの背面にマグネットを組み込み鋼板への付着を可能にした、接着剤付きクリップ。

【図面の簡単な説明】

【図面1】 携帯電話用クリップの取り付け正面図である。

【図面2】 携帯電話用クリップの取り付け側面図である。

2

【図面3】 携帯電話引っ掛けクリップの取り付け正面図である。

【図面4】 携帯電話引っ掛けクリップの取り付け側面図である。

【図面5】 携帯電話用クリップの取り付け平面図である。

【図面6】 携帯電話用クリップの正面図である。

【図面7】 携帯電話用クリップの背面図である。

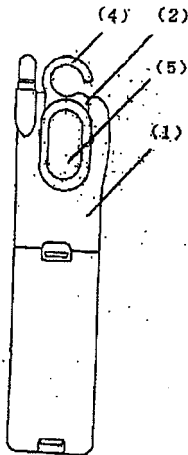
【図面8】 携帯電話用クリップの側面図である。

【図面9】 携帯電話用クリップの底面図である。

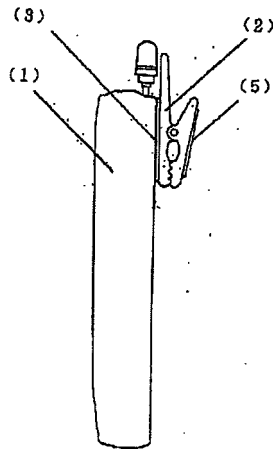
【符号の説明】

- (1) 携帯電話
- (2) 携帯電話用クリップ
- (3) 接着テープ
- (4) フック
- (5) マグネット
- (6) 引っ掛けクリップ

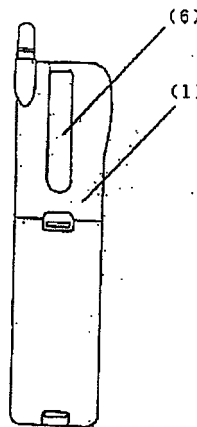
【図面1】



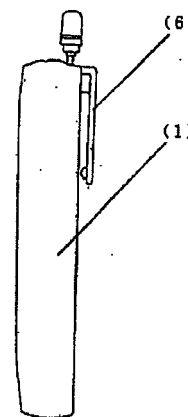
【図面2】



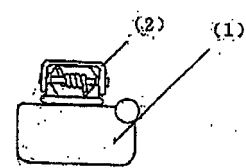
【図面3】



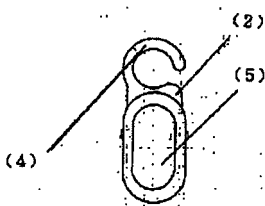
【図面4】



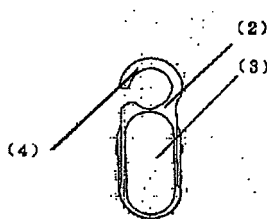
【図面5】



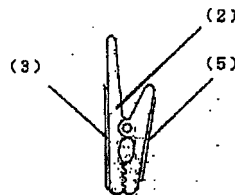
【図面6】



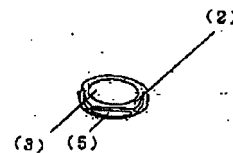
【図面7】



【図面8】



【図面9】



【考案の詳細な説明】**【001】****【発明の属する技術分野】**

本発明は、携帯電話とクリップを一体化し、携帯電話の便利機能に関する。

【002】

【従来の技術】 従来より螺旋コード付きのクリップはあるか、携帯時ポケットからの落下は免れなかった。

【003】 深いポケット及びケース内に納入している場合、携帯電話使用時出しにくかった。

【004】 又壁などにかけてくく、机、棚などに置いた場合携帯電話受信時、振動式においては受信振動により落下破損が多々見受けられた。

【005】**【課題を解決するための手段】**

本発明は、携帯電話用クリップにおいて携帯電話の裏面に接着剤付き（両面テープ要領）にてクリップを取り付け、携帯電話とクリップを一体化した。

【006】 又携帯電話製作時、ペンシルキップ要領にて携帯電話に直接クリップを設ければ、上記の両面テープ形式の後付けを解消できる。

【007】 携帯用電話クリップに引っ掛け具を設け、壁などにかけることを可能にした。

【008】 携帯用電話クリップ背中面にマグネットを組み込み、鋼板への取り付けを可能にした。

【009】

【作用】 上記のように形成された携帯用クリップは、携帯電話を携帯時よりシンプルに携帯でき、落下を防止し取り出し時も便利である。

【010】 又壁面などの設置においても、より安定して設置できる。

【011】**【発明の実施の形態】**

発明の実施の携帯を実施例にもとづき図面を参照して説明する。

図面1において携帯電話(1)に携帯電話用クリップ(2)を接着テープ(3)にて接着し、携帯電話(1)と携帯用クリップ(2)を一体化した。

【012】 図面3において携帯電話に直接ペンシルキャップ要領にてひっかけ、クリップ(6)を取り付け一体化した。

【013】 図面6において携帯電話用クリップ上部にフック(4)を取り付け、壁などにかけることを可能にした。

【014】 図面2において携帯電話用クリップの背面にマグネット(5)を組み込み、銅板部への接着取り付けを可能にした。

【015】

【発明の効果】 本発明は以上のような構造であるから次ぎの効果が得られる。

【016】 携帯用クリップを携帯電話に取り付けることにより、ポケット内からの落下を防止し、取り出し時もスムーズに取り出すことができる。

【017】 携帯電話の設置場所を選ばない。

【018】 クリップのデザインの自由選択ができる。

【019】